

徳島県地球温暖化対策推進計画(答申案)

概要版

1. 計画の背景等

近年、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスが地球規模で増加する傾向にあり、平均気温が上昇し、豪雨や干ばつが発生するなど、私たちの生活に様々な影響をもたらしており、国際社会や国はもとより地域社会においても「地球温暖化」の防止に取り組んでいく必要があります。

2. 計画の趣旨

低炭素社会を実現していくためには、具体的な目標や施策を明らかにし、地球温暖化対策を総合的かつ計画的に推進していくことが必要となります。

そこで、新たに「徳島県地球温暖化対策推進計画」を策定し、温室効果ガスの排出抑制など、地球温暖化対策に県民、事業者、行政等が一体となって県民総ぐるみで取り組んでいきます。

3. 計画の位置づけ

この計画は、「地球温暖化対策推進法」及び「徳島県地球温暖化対策推進条例」に基づき策定するものであり、本県の地球温暖化対策を推進するためのものです。

4. 目指すべき姿

「環境の世紀をリードする低炭素社会とくしま」の実現

5. 計画期間

2011年から2020年までの10年間

6. 削減目標

温室効果ガスについては、民生部門をはじめ運輸部門などの排出抑制を図り、本県における森林吸収量と合わせ、2020年には1990年比で15%削減を目指します。

また、これに加え、国における海外での排出量取引「国外クレジット」の10%を加算し、合計25%削減することを目標とします。

なお、削減目標については、今後の国の動向等を踏まえ、必要に応じて見直すなど柔軟に対応します。

7. 施策の方向性

今後10年間の温室効果ガスの排出抑制や吸収源対策などを推進していくため、産業部門や家庭部門などの「部門別の取組み」についての基本的な方向性や「部門横断的な取組み」を明らかにし、施策の積極的な展開を図ります。

(1) 部門別の取組み

- ①産業部門
- ②家庭部門
- ③業務部門
- ④運輸部門
- ⑤廃棄物部門

(2) 部門横断的な取組み

- ①再生可能エネルギー等の普及拡大
- ②まちづくり
- ③森づくり
- ④普及・啓発等
- ⑤賢い対応（適応）

(1) 部門別の取組み

①産業部門

大企業はもとより、本県のほとんどを占める中小企業や、農林水産業においても、高効率型設備の選択や設備の使用方法的工夫などを通じ、事業活動に伴うエネルギー消費効率等を高める省エネ対策や、温室効果ガスの排出のない、あるいは、少ないエネルギーの導入やこれへの転換などの対策が、着実に実施されるよう取り組みます。

併せて、環境・エネルギー産業の創出など、新たな成長戦略を進めます。

②家庭部門

「見える化」により県民一人ひとりが自らの問題として捉え、これが家庭用機器の効率的・効率的使用や、省エネ型機器など環境に配慮したものの選択、さらには再生可能エネルギーの利用など、具体的な実践・行動へと結びつくよう取り組みます。

③業務部門

建築物について、新築・既築を問わず、高効率の空調・照明等の設備、断熱効果の高い壁やガラスの導入などの省エネ対策や、再生可能エネルギーの導入や緑化などの対策が促進されるよう取り組みます。

④運輸部門

エコカーの普及促進、交通流の円滑化や信号灯器のLED化、物流の効率化やエコドライブの推進など、ハード・ソフト両面から総合的に取り組みます。

⑤廃棄物部門

分別の徹底やグリーン購入などによる再資源化の促進、生産工程の見直しやレジ袋ゼロ運動などによる発生抑制等、廃棄物の3Rを更に推進し、焼却や埋め立て処分などに伴う温室効果ガスの排出抑制に取り組みます。

(2) 部門横断的な取組み

①再生可能エネルギー等の普及拡大

国における補助制度・買取制度などを効果的に利用する中で、本県に豊富に存する太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーの地産地消を進めるなど、普及拡大に取り組みます。

併せて、新たな産業の創出や地域の再生へと繋がります。

②まちづくり

都市機能の集約等による「歩いて暮らせるまち」の実現、公共交通機関や自転車等を重視した交通システムの構築、豊かな自然や未利用エネルギーの活用など、それぞれの地域の特性を生かした環境への負荷の小さい低炭素型の都市・地域づくりに取り組みます。

③森づくり

間伐や植林などによる健全な森林の育成・管理、企業・県民など多様な主体と協働した森づくりや森林カーボン・オフセットの推進、さらには、県産材による製品の利用の推進などに取り組みます。

④普及・啓発等

環境首都とくしま創造センター「エコみらいとくしま」を中心に、子どもから高齢者まであらゆる方が、学校・職場・地域など様々な場で学習できるよう取り組むとともに、とくしま環境県民会議において、産学民官が連携・協働して、地球温暖化防止活動の実践、エコポイントや各種クレジット制度の活用などに県民総ぐるみで取り組みます。

⑤賢い対応（適応）

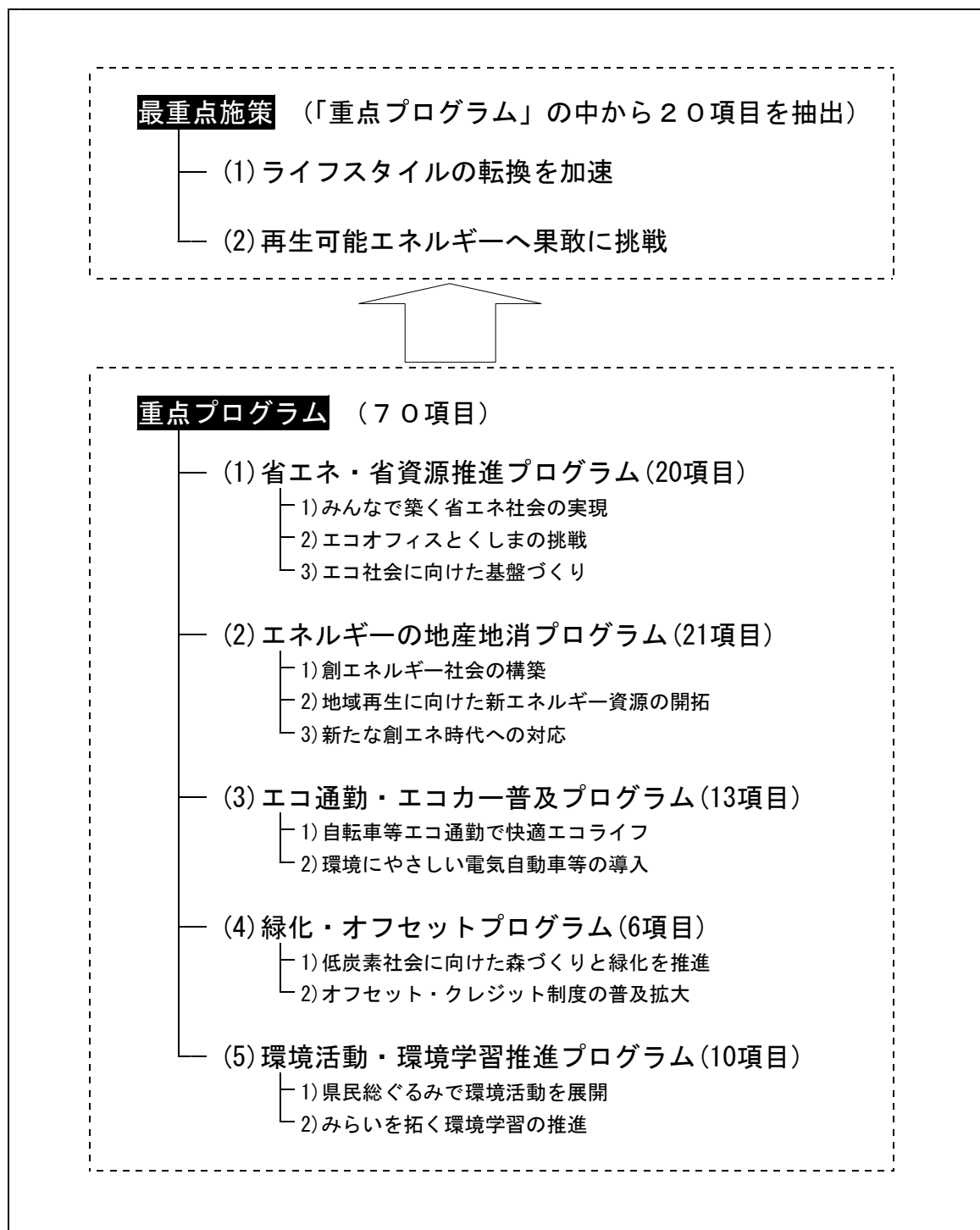
既に取り組んでいる豪雨の頻発や大型台風の発生などへの防災対策はもとより、今後、猛暑や暖冬などに対する、農産物の生産や家畜の飼育など農林水産分野での対策、熱中症や感染症など健康分野での対策、名古屋で開催されたCOP10（生物多様性締約国会議）を契機とした生物多様性の保全など自然生態系分野での対策など、新たな分野での対策について、調査・研究・実践へと取組みを進めます。

8. 重点プログラムの推進

温室効果ガスの排出削減を効果的かつ着実に推進するために、今後4年間の重点的な取組みとして「重点プログラム」を設定します。

また、東日本大震災を契機として、「省エネ運動」と「創エネ運動」を加速させていくため、「最重点施策」を位置づけ、県民総ぐるみで展開します。

「重点プログラム」については進化する行動計画とし、毎年度見直しを行うこととします。



最重点施策

(1) ライフスタイルの転換を加速 (10項目)

東日本大震災を契機に県民の省エネ意識が高まっており、新しいライフスタイルの確立を目指して県民総ぐるみで運動を展開し、省エネ社会の実現を図ります。

- ① とくしま環境県民会議を核に県民総ぐるみで環境活動を展開
- ② 徳島モデルの「サマータイム」を普及し、省エネ社会を実現
- ③ 節電意識を高める「電力エコとく大作戦」を県民運動で展開
- ④ 「徳島夏・冬のエコスタイル」を普及し、県民生活のエコ化を推進
- ⑤ 買い物行動の省資源化を図るため、「マイバッグ運動」を全県展開
- ⑥ 「エコみらいハウス」を設置し、ソーラー、LED、リチウムイオン電池等の「見える化」を推進
- ⑦ 学校施設の屋上緑化やLED照明の活用など「エコスクール化」を推進
- ⑧ 家庭や事業所、街灯などのあらゆる照明のLED化を図り、省エネ社会を実現
- ⑨ 徳島ならではのエコ通勤戦略を積極的に推進
- ⑩ 電気自動車やプラグインハイブリッド車等の次世代自動車の普及拡大

(2) 再生可能エネルギーへ果敢に挑戦 (10項目)

太陽光、風力、小水力、バイオマスなど、豊富な地域資源を最大限活用し、再生可能エネルギーの導入を促進し、災害に強い地域完結型のエネルギー社会を目指します。

- ① 未利用地などを活用した「メガソーラー」の導入を推進
- ② 太陽光など再生可能エネルギーを活用した災害拠点モデル施設の整備
- ③ 家庭や事業所において太陽光発電等を積極的に導入し、電力需給率を向上
- ④ 利用可能量調査に基づく再生可能エネルギーの開拓
- ⑤ 地域資源を活用した小水力発電施設の導入・実用化
- ⑥ 地域の小水力や風力等の再生可能エネルギーに先導的に取組む市町村を支援
- ⑦ バイオマスエネルギーなどを活用し、石油依存度の低減を図る「脱石油」産地づくりを促進
- ⑧ 再生可能エネルギーを活用した地域再生のための研究拠点の設置
- ⑨ 電力需給バランスを調整する次世代配電網（スマートグリッド）の導入に向けた研究
- ⑩ 「次世代エネルギー活用促進研究会」を設置し、リチウムイオン電池を活用した応用製品の開発

重点プログラム

Ⅰ(1) 省エネ・省資源推進プログラム (20項目)

1) みんなで築く省エネ社会の実現

県民の省エネや省資源に対する意識改革を図り、新しいライフスタイルへ向けた取組みにより省エネ社会を目指します。また、事業者の新エネ・省エネ対策、CO₂削減を加速させるため、様々な支援や取組みを実施します。

- ① 徳島モデルの「サマータイム」を普及し、省エネ社会を実現
- ② 節電意識を高める「電力エコとく大作戦」を県民運動で展開
- ③ 買い物行動の省資源化を図るため、「マイバッグ運動」を全県展開 など

2) エコオフィスとくしまの挑戦

「サマータイム」の導入や「エコオフィスとくしま・県率先行動計画」の積極的な取組みにより、環境にやさしい行政運営と県民への浸透を図ります。

- ① 徳島県版サマータイム「あわ・なつ時間」の実証実験
- ② 「徳島夏・冬のエコスタイル」を徹底
- ③ 県の事務事業で排出される温室効果ガスを削減 など

3) エコ社会に向けた基盤づくり

家庭や事業所、公共施設などでLED等の省エネ製品を積極的に導入し、徳島ならではのエコ社会の実現や農業分野におけるCO₂削減に向けた基盤づくりを推進します。

- ① 「エコみらいゆ」を設置し、ソーラー、LED、リチウム電池等の「見える化」を推進
- ② 家庭や事業所、街灯などのあらゆる照明のLED化を推進し、省エネ社会を実現
- ③ 農業生産現場のCO₂削減取組を「見える化」し、環境に配慮したブランドを育成 など

Ⅱ(2) エネルギーの地産地消プログラム (21項目)

1) 創エネルギー社会の構築

低炭素社会の実現と災害対策の観点から、電力会社からの供給だけではなく、地域に豊富に存在する太陽光などの再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

- ① 未利用地などを活用した太陽光発電（メガソーラー）の導入を推進
- ② 再生可能エネルギーを活用した災害拠点モデル施設の整備
- ③ 家庭や事業所における太陽光発電等の導入を促進 など

2) 地域再生に向けた新エネルギー資源の開拓

太陽光、風力、小水力、バイオマス等の豊かな地域資源を活用し地域再生を図るため、市町村等と連携し新エネルギー資源を開拓します。

- ① 利用可能量調査に基づく再生可能エネルギーの開拓
- ② 地域資源を活用した小水力・風力発電施設の導入
- ③ 地域の小水力や風力等の再生可能エネルギーに先導的に取組む市町村を支援 など

3) 新たな創エネ時代への対応

エネルギーの地産地消に向け、産学民官の連携・協働や県内産業の優位性を活かしたエネルギー分野の開発支援を強化します。

- ① 電力需給バランスを調整する次世代配電網（スマートグリッド）の研究
- ② 「次世代エネルギー活用促進研究会」を設置し、リチウム電池を活用した応用製品の開発促進
- ③ LED製品の商品化など省エネ製品・技術の開発支援を推進 など

【(3) エコ通勤・エコカー普及プログラム (13項目)】

1) 自転車等エコ通勤で快適エコライフ

通勤・通学等の移動手段を徹底的に見直し、利用環境の整備などを通じて自動車の利用を抑制し、徒歩や自転車・公共交通機関等の利用を促進する低炭素型の交通体系を構築します。

- ①徳島ならではのエコ通勤戦略を積極的に推進
- ②自動車の利用を抑制し、「サイクル・アンド・ライド」をはじめとする「環境首都型通勤」を創造
- ③パークアンドライド、ノーカーデー等の推進 など

2) 環境にやさしい電気自動車等の導入

電気自動車やプラグイン・ハイブリッド車など次世代自動車の積極的な導入や、その基盤となる充電施設等の普及を通じてエコカー社会の実現を目指します。

- ①電気自動車やプラグインハイブリッド車等の次世代自動車の普及拡大
- ②電気自動車用充電設備の普及を推進
- ③関西広域連合と連携した広域充電マップの作成 など

【(4) 緑化・オフセットプログラム (6項目)】

1) 低炭素社会に向けた森づくりと緑化を推進

CO2吸収源である森林の重要性に着目し、企業と県民とが協働した森づくり活動や、公共事業等において緑化や木材利用を推進します。

- ①低炭素社会の実現に向けた県民と協働した森づくり活動を推進
- ②道路・河川・公園事業等との連携による法面緑化や植栽を推進
- ③ビルや住宅におけるエコハット・エコマント（屋上・壁面緑化）を推進 など

2) オフセット・クレジット制度の普及拡大

カーボン・オフセットのさらなる推進に向け、産学民官が協働し調査・研究などを行い、新たなモデルづくりや枠組みづくりを拡大していきます。

- ①徳島の森を活かしたカーボン・オフセットを推進
- ②産学民官連携によるカーボンオフセット制度の普及拡大に向けた研究

【(5) 環境活動・環境学習推進プログラム (10項目)】

1) 県民総ぐるみで環境活動を展開

「とくしま環境県民会議」を中心に産学民官の連携・協働のもと県民総ぐるみで環境活動を推進します。

- ①とくしま環境県民会議を核に県民総ぐるみで環境活動を展開
- ②県内高等教育機関との連携・協働による環境活動を促進
- ③地球温暖化対策に貢献している事業者や県民の活動に対する評価・表彰・PRを推進 など

2) みらいを拓く環境学習の推進

県民の活動拠点である「エコみらいとくしま」での環境学習を積極的に推進し、県民一人ひとりの自主的・積極的な環境行動・活動を支援します。

- ①学校施設の屋上緑化やLED照明の活用など学校を拠点とした環境教育を推進
- ②学校における環境学習活動を企業等が支える「環境首都あどぷと・エコスクール」の実施
- ③「エコみらいとくしま」において環境学習や人材育成を実施 など